

今月の例会報告

パタゴニアの取組からリジェネラティブ・オーガニックを学ぶ

農業経営部会農業政策・環境グループは11月6日に例会を開催。59名が参加しました。本例会はZoomでのオンライン配信も併設し、59名の内22名はオンライン参加しました。パタゴニア・プロビジョンズ マネージャーの近藤氏、パタゴニア日本支社環境社会部門 木村氏、同ワークウェア担当の加藤氏の3名をお招きし、アウトドアグッズメーカーであるパタゴニアが食品事業に取組み始めた意義と農業の持つ大きな価値、同社が推進するリジェネラティブ・オーガニックについてお話頂きました。

アウトドアグッズメーカーとして有名なパタゴニアですが、それらの原料である綿などの生産にはやくからこだわり、地球環境を壊さない・我々が長く使って消耗してきた地球環境を蘇らせるようなオーガニック農業を推進。パタゴニア・プロビジョンズとしてオーガニックフードも手掛けています。近年国際的な認証制度として注目され始めている「リジェネラティブ・オーガニック」を推進し、気候変動や土



壤を消耗させて大規模化してきた農業を地球を救うものにしていきたいという同社の取組と想いが語られました。参加者からは様々な質問が寄せられ、地球環境への関心の高さがうかがえました。

めむろワイナリーが考える未来創造とは？

農業経営部会販売戦略グループは11月25日に視察例会を開催しました。今回は芽室町の農業経営者有志で設立し、自社ワイナリーを建設しためむろワイナリー(株)を視察。尾藤社長に設立の想いや今後の販売戦略についてお話頂きながら、できて間もない自社ワイナリーをご案内頂きました。

芽室町で育ったぶどうを100%使用し、アジアでここだけの選別機を導入。AIを用いてぶどうの良し悪しを判別し自動で選別します。醸造のこだわりは生産者ごとの製造。どこの農家で生産したぶどうかわかるようにそれぞれ別のボトルで醸造しています。樽にもこだわり、海外から輸入。様々なこだわり



を込めて仕込まれたワインは100名のサポーター優先で今年から販売を始めました。「サポーターと共にこのワイナリーを育てていきたい」と未来への展望で盛会のうちに終了しました。

今後の予定

今年度の農繁期も終え、無事に冬を迎えることができそうです。農経部会も活動が本格化してきています。新型コロナウイルスの感染拡大が全国的にも爆発し、第3波が到来しましたが、WEB会議ツール「Zoom」を活用して学びを続けていく予定です。(今後の例会予定)

(今後の例会予定)

11/27(金) 畑作農業における通年雇用の取組

12/11(金) 折笠農場新設工場見学例会

1月 事業承継、十勝総合振興局長講演etc…